

第1回保育専門学園運営委員会報告（県庁、学園職員を除く委員9名中8名より回答）

目的：質の高い保育士を養成するための、教育や学校運営のありかたを検討する

1. 学園事業状況をまとめた資料を委員に送付し、委員より意見をもらう形での開催について

同意 8 同意しない 0

2. 学園の教育状況（環境、定員、職員数、授業方法、学生支援体制など）に関する意見

- ・ 学園を卒業し就職した学生からは、学園愛の強さや、学園生活が楽しく充実していた様子がうかがえる。施設の老朽化により不都合なことはないのかと思う。
- ・ 保育士を志す学生にとって魅力のある進学先といえる。敷地内に附属泉こども園が存在していること、卒業までの経費の安さは特に大きな魅力といえる。
- ・ 入学後も、先生方や先輩による支援が細やかで、満足した学校生活が送れ、子どもに関わる職業に就職できる環境にある。幼稚園教諭の取得に向けた支援もありがたい。
- ・ 実践的な授業が多く、就職後すぐに役立つ内容になっていて良い。
定員は多くも少なくもなくちょうどよい。
職員は身近で親身になって話を聞いてくれる。
卒業生が学園を尋ねたくても、夕方17時半過ぎだと誰もいなくなっている。
- ・ 定員は、現在の設備・環境から考え妥当な人数であると思われる。
選抜方法については、県立という制約もあると思われるが、もう少し多様な方式を検討しても良いのではないか。
専任教員と非常勤講師のバランスに偏りがあるのは致し方ないが、教務担当者の研修充実について検討が必要と考えられる。
学生支援や、就職支援などについては、評価できると思われる。
- ・ 限られた教職員体制ではあるが、十分努力されていると思われる。ホームページは石川県のホームページの中にあるが、独立したホームページの作成により、より保育専門学園の魅力が伝わり、学生募集につながると考えられる。
もう少しITCに関し充実が望まれる。卒業後の保育所・幼保連携型認定こども園は多額の補助金でITCが展開されている。送り出す側も、授業として情報機器の学び方もカリキュラムに設定されているが、より保育内容に即したスキルアップのための指導があってもしかるべきではないか。
- ・ 授業について、特に1年生前期に保育現場において子どもを見る、触れる、抱く、匂いをかぐ、声を聞くなどの経験をする時間を設定できないか。例えば附属こども園で5時間目の授業を使って、10人の学生を前期の期間に配置する。
- ・ 就職について、卒業生の県内就職を維持するために、例えば給与アップを願うこと

はできないか。3年間県内施設で就職すれば学費が戻るとか、関東地区と県内との給料格差が3～5万円くらいあり、このままだと今以上に県外就職者が多くなるのではないか。4年制大学の就職では、約3分の1以上が一般企業に流れたり、県外に就職するといわれている。

- ・適正な職員配置は出来ているようであるが、講師と教師の相互連携体制の整備・充実を望む。それぞれが専門に授業を受け持っているが保育現場が総合教育であるのと同様に強化によっては関連し合う内容があると思うので、ダブっている部分を整備する必要があると考えられる。
- ・何が原因かわかりませんが、学生の学力が低下しているように思う。人数確保は必要ですが、資質を下げてはいけないと思う。
- ・ほとんどの学生は頑張っている。2年間という限られた期間で保育士、幼稚園教諭の両方の資格持つとなれば多くの負担がかかりそうで心配。人間性を養う意味でもゆとりある学生生活を送らせてあげたい。

3. 学園の運営状況に関する意見

- ・授業料が安いことは魅力の1つだが、そのことも含め、学園の良さをSNSなどの活用し発信していくこともよいのではないか
- ・保育士を目指す高校生には大変魅力のある進学先に感じる。特に泉こども園の附設は他校にはない魅力といえる。
- ・職員数の割に学校行事が多いように感じる。その一方PR活動が不足している感じがする。例えば専攻科のカリキュラムは子どもに関する現代社会の諸問題を踏まえた興味深いものになっているが、保育学科を受験する時点で、もっとPRを行い、他校との差別化を図ってよいのではないか。
- ・保育を目指す人にとって、大学よりよいところがたくさんあるのに、あまり一般に知られていないような気がする。幼稚園免許資格も取れるので、もう少しPRしても良いのではないかと思う。
- ・専攻科の活用について。専攻科を卒業することで「〇〇保育士」といった県内特例資格が創設できないか。指定教科を履修すれば、県内短大でも取得できるようにする。
- ・潜在保育士について。保育士不足の現場の嘆きを解消するために、卒業生の現状調査を実施し、学園で対処できる再就職につなげる方法を考える（例：保育実習、就職情報提供）
- ・専攻科をもっと有効利用できる「場」にすべき。

第1回学校関係者評価委員会報告（県庁、学園職員を除く委員9名中8名より回答）

目的：学校職員の自己評価結果をもとに、学園の運営状況の改善点について提言を受ける。

1. 委員会へ学園の自己評価結果を送付し、委員より意見をいただく形での開催について

同意 8 同意しない 0

2. 学園職員の自己評価に対する意見

【意見欄】

項目	ご意見
1) 教育目標・計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ AP, CP, DP の3ポリシーの作成 ・ 実践的なものが多く、就職後すぐに役立つ内容であると思う。 ・ 的確な教育目標であり、適切な計画である。ぜひ生徒、保護者への一層の周知を図ってほしい。
2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生への説明責任の強化 ・ 卒業生の意見交換をたくさん持ち、実践に役立つように心がけて欲しい。 ・ 伝統、環境、アットホームな規模を良く活用している。 ・ 地域差はあるが、資格としては両方の免許が必要なので「保育士」「幼稚園教諭」の区別なく教育が必要。
3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の保育施設から期待されている。保育専門学園ならではの強みを示す。 ・ 3)～7)をまとめて、細やかな支援体制と恵まれた実習環境を活かし、資格取得、卒業、就職支援、卒業後の専門性向上まで一貫した流れがあり、良い。 ・ 3)～6)については、教職員のほうが、保育の現場を見るので、具体的に見えるのではないか。 ・ 実践教育、現場実習重視（1年生の早期体験）。 ・ 保育現場のITC化に対応する力の養成。
4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が研究して発表することは、学生の主体的な取組としてとても大事なことだと思う。 ・ 専攻科への進学者が少ないようだが、何か方策はないか。保育士資格、幼稚園教諭免許の両方が取得できるようになり、良かった。 ・ 専攻科卒業生の資格創設。 ・ 退学に対する対策が必要。
5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生へのソーシャルワーク的対応が充実していると思われる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・担任制であり、学生に寄り添ったきめ細かい支援体制が出来ているのではないか。 ・学生の生活支援。 ・課外活動への支援（得るものが多いので大切）。
6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT化の推論。学生のアメニティ充実。 ・学生が気持ちよく学べる設備・環境の整備。 ・リモート学習（PCの貸出し）の充実。 ・教室が狭い（コロナ対策にも重要）。
7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの充実。 ・外に向けPRをしたら良い。 ・受験者数が安定している。 受験料等は、他短大と比較して低くて、いいと思う。学びたくても経済的な理由で進学をあきらめている学生がいるので、セフティネットとしての役割は大きい。
8) 財務	
9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・問題はない。
10) 地域社会との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献であることをアピールする。 ・「百万石まつり」ばかりではなく、活動 ・教育内容が理解できる企画があっても良いのではないか。 ・現在も様々なボランティアに参加しているが、修学時に様々なボランティアに参加し、実体験を積むことはとても大切であり、今後も積極的に取り組んでもらいたい。 ・学校施設を利用した社会貢献は必ずしも必要ではないと考える。県内保育士向けの講座開催は有意義であり、地域貢献として価値が高い。 ・学校行事への地域住民の参加を増やす。 ・卒業生へのアフターケア（メンタルケア、新就職情報提供）。 ・学生の地域貢献、ボランティア参加の活性化。